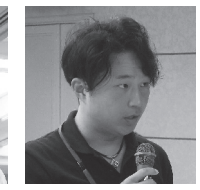
全体質疑

林　直也（神戸地本）
●組合費が何に使用されているかが不透明であり、西労組全体で、組合費の在り方を考えるべきである。
●社会人採用などで、青女世代が減っている。もう一度年齢を引き上げないか。

野口　柚子（本社総支部）
●鉄病の職場風土について、前残業が規制され、ログ管理が厳しくなり、定時にPCをログアウトしなければという使命感にかられ、業務品質の低下が起こっている。また、超勤を行うと、紙で記入し印鑑が必要という面倒臭さがサービス残業を助長している。

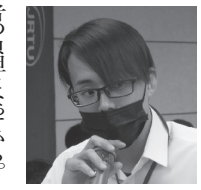

林 委員

野口委員

日野　裕斗（本社総支部）
●年間休日数119日。カレンダーの休日数が年間休日数を上回った場合、休日に出勤することになる。祝日診療日があり、職員や患者の負担となっている。

尾本　樹哉（広島地本）
●休憩場所について、2人1部屋ではなく、完全個室を求める。
●山口線ワンマン化により車内マナーが悪化。駅の窓口閉鎖や無人駅化が進み、CS低下が加速している。

日野委員


尾本委員

小笠原委員

岩谷委員

●学生時代に学んだことを会社ですぐにできない。それが離職に繋がっている。良い人財を集めるには、採用区分を細分化すべき。青女として基本組織にどう提言していくのか。
●青女活動が多く、年休、購入券が圧倒的に足りない。

高林委員

野坂委員

小笠原康貴（本社総支部）
●資格取得一時金について、高度な資格に対してはより高く設定しては如何か。

岩谷　柊（京都地本）
●早期選抜制度としてできたのにも関わらず、要員の関係でポストがない。NS研修の具体的な今後の展望を教えてほしい。
●クレペリンに代わる検査の検討を。
●工務系統作責手当について、JR東海では現場に出る工務社員に対し1万円の手当を支給している。格差、不公平を感じた。

才原委員

高林　大樹（金沢地本）
●自分の命を守れてこそ、お客様の命を守れる。今回の墜落死亡労災が周知がされていない。
●ユースビを知らない組合員に楽しさを伝えきれていないのではないか。金沢地本としては、なるべくニューフェイスを出せるようにしていく。ウォークラリー以外がいい。
●ウィンドブレーカーについて、耐水性が弱い。

野坂　隼人（広島地本）
●事故車両の展示のために研セの工事を行っているが、使い方が開示されていない。
●ICカードについて、相互乗り入れの清算ができず困っている。
●遠隔MVについて、オペレータにつながるまで長い。苦情ばかりで、駅社員のモチベーションが低下している。
●政治への関心を強めるために、勉強会の継続を。

才原　宏之（本社総支部）
●定期委員会日程について、オペレーション変更等多々あり、昇進・進級試験などもあり、10月ではなく9月に。

中間答弁

動物遺骸処理等給付金獲得をスタートとして

高杉青女副委員長
◆インスタについて、組織としてのSNSは個人で発信するのとは違う。マニュアル等作成して次世代につなげ、発信を促したい。
◆前回の交渉で動物遺骸処理等給付金を勝ち取ることができた。少ないが、これをスタートとして、今後も勝ち取っていく。

NS研修は諸課題交渉で議題に

中村業務部長
◆安全について、感電墜落死亡労災について議論を行っている。
◆駅について、2年後にオペレータ増強、来年度から購入券電子化の導入予定。
◆最近スタンドアローンPCで勤務管理ができていなかった実態が浮き彫りになり、調査を行っている。
◆職場の環境に投資を行っている。ES概念を将来どう結び付けていくか、会社側は現在検討中である。
◆現状ほかの検査手段がないため、クレペリン検査を行っている。
◆NS研修・ウィンドブレーカーについて、諸課題交渉で議題としてあげる。
◆会社の言い分だが、休日を119日から120日にすると必要要員を増やさないといけなくなってしまう。

中村業務部長

青女の斬新な声に刺激を受けた

田中政策・調査・福祉対策部長
◆青女担当としてすごく刺激を受けた。是非引き続き声をあげて会社と議論していきたい。
◆組合費について、決算は、個々の行事の経費を出すのは難しく、まとめて○○費となっている。会計監査は部外にも委託している。
◆女性関係の労働協約について、なかなか拡充は難しく引き続き声をあげていく。
◆賃金実態調査について、WEBを使っているが、年々回答率が悪化している。いかに100%の回収率にするかが課題である。

用途に応じた情宣の仕方について、考えていきたい

尾崎 情宣・文化・レク部長
◆青女の意見をどう聞いて、どうまとめて基本組織に伝えるか。まずは、同世代同士が集まって意見を集約し、特別執行委員等で基本組織に入っている委員長が基本組織に意見を言っていく。
◆情宣について、掲示板が、手軽さ・使いやすさという点では、一番だと考えている。印刷、職場集会、SNSなどいろんなやり方がある中で、少しでも目に触れるように勉強していきたい。

田中 政策・調査・福祉対策部長

「大卒30万」が採用競争臨界点

三宅青女副委員長
◆大手リクルートサイトで、大卒で30万以上ないと就職しないというアンケート結果が出ている。収入の確保という点で、採用競争に負けている。
◆人間ドックについて、2022年までの利用者累計（35歳以下）が260名しかいない。増やしていく。
◆バスフォーラムの参加人数を増やしたい。
◆駅の合併の話がある。分会が減るのは確実である。
◆チケットレスの慫慂について、MVをなるべく使ってもらおうと、CSチームでお客様に£5489を教えている。また、コールセンターの無作為の要員増員は、不透明で責任を負えない。
◆不妊治療について、女性の気持ちを会社はわかっていない。
◆超勤について、一度上司に相談してみてはどうか。また、紙ベースになった理由が、以前LMSに空超勤を入力している人が多くいたから。

尾崎 情宣・文化・レク部長

情報発信の工夫を

李澤事務長
◆組合離れへの対処という意味でも、情報発信の際の指示文の工夫はありがたい。
インスタ等では、過去の写真や動画を見られるようにしていきたい。
◆組休拡大について、厳しいのは否めない。みんなで声をあげていくことが重要である。

要員不足を会社に訴えていく

上地常任委員
◆要員不足について、いろんな箇所から声を頂いている。
◆除草について、できないことはできないと言い、外注をはじめ、やり方を検討していってほしい。
◆ユースビの成功、本部としても感謝申し上げる。

◆チケットレス慫慂について、会社が目指している状況にお客様が適応できていない。コールセンターの要員等を会社側に訴えていきたい。

近年バス業界はニュースになるほど厳しい状況

中村常任委員
◆近年バス業界はニュースになるほど厳しい状況にある。
青女としてしっかり声をあげていく。
◆バスフォーラムについて、中央のレクに出しても恥ずかしくないものに仕上がったと実感している。
◆中バス青女は、20数人と小さい組織ではあるが、一人ひとりフォロー、コミュニケーションがとれる環境だと思っている。私たち後輩が民主的な空気を作っていきたい。
◆人材確保について、広島バスは中バスの基本給の5万ほど高い。バスや医療職は、転職のハードルが低い。しっかりと声をあげていく。

ESありきのCSである

磐田青女副委員長
◆組合費について、掲示板等を活用したり、勉強会を開いたり、情報発信に努めていただきたい。
◆支部で工務系統だけとか運輸だけとかの意見が固まってしまうのは、強みなのではないかと思う。系統ごとの深い意見を吸収できる。
◆地上職の待遇改善について、工務で作責手当ができたが金額が低い。車両系統には作責手当はない。

退任する役員の皆様（左側）
お疲れ様でした

2023年度常任委員

◆オフィス365が導入されたが、機能不全の状態。
◆バスフォーラムで、バスの方々の仲間意識が強いことを実感した。中央としても積極的に参加していく。
◆隊列走行実験について、中バスで実験をしているのに、ロゴがないのは悔しい。マグネットシートのロゴはいかがしれない。
◆資格取得一時金について、新しくできた制度についてはレビューというものが必要。簡単なものから難しいものまでの傾斜はつけるべきだと私も思う。
◆私も2人1部屋は一考を要すると考える。
◆車内マナーの悪化について、会社側がどうしていきたいのかを示してもらうべき。CSビジョンが示されていたが、ESありきのCSだと思っている。
◆購入券について、役員だけ増やすのは、格差（軋轢）が生まれる懸念がある反面、役員をやっていただいている以上は何かしらの措置をとらなければならない。
◆賃金について、手当分を基本給に置き換える必要がある。

青女で、「話し合う」「協力しあう」をいっぱい経験しよう

沖畠青女委員長
◆役員引継ぎについて、支部に関わる分会から一人ずつ出るのは普通だと思っている。みんなと話し合ったうえで、引き継ぎながら回していく運営にしていただきたい。明記してしまうと、やりたい人がやれなくなるかもしれないので、柔軟に対応してほしい。
◆採用区分について、やりたいことをやりたいこともわかるが、ほかの経験も積んでほしい。ただ、希望はきちんと伝えないといけない。
◆ユースビについて、今の時代に合わない等々意見は重く受け止める。
◆組合について、青女は青女で考えないといけないし、基本組織は基本組織で考える部分もある。だからといって方向性が違ってはいけない。

JR連合のバス施策に集約

石田原 組織・政治・国際・法対部長
◆バスの人手不足は重々承知している。山口県議で声をあげている。JR連合の施策を展開している認識を。
◆組合費内訳について、一度西労組新聞に書いてみようと思っている。
◆組合費の使い方、専従や職員数の見直し、適切な組織の在り方について議論をしていきたい。

仲間づくりを絶やさないように 青女らしさを絶やさないように

李澤事務長　総括答弁

安全について

安全について、常に声掛けを行うことが大切である。コミュニケーションを通じて始まるもの、得られるもの、気づくものがたくさんある。仲間の大切な命を守るために引き続き声掛けを行ってほしい。

青女活動について

コロナ禍で自身の将来について考えるようになった。将来に不安を抱える人が多くなり、JR西日本としても離職が増え、貴重な存在が流失し、大きな課題となっている。仲間づくりにも大きな影響が出た。しかし、決してマイナスだけではなかったと思う。これまで仲間同士の信頼関係の中で培ってきたスキルは、どんな状況下でも仲間づくりを絶やさないように、また青女らしさと絶やさないように、活動が展開できる。
　また、この先何が起きるかわからない状況でこそ、必ず武器になる。今までしたことがない新しい活動の場面でも、自分でも気付かなかった潜在能力が発揮されることと思う
　たくさんの仲間と出会って学んで、青年女性委員会という魅力ある組織の限られた時間を全員参画で盛り上げていこう。

メインスローガン

「創　造」形式や失敗にとらわれず 新しい活動を創ろう!
「参　加」労働組合はみんなのもの 積極的に参加しよう!
「実　践」言うだけでは何も変わらない 皆で考え全員で実践しよう!

サブスローガン

◆ JR西労組の必要性を再認識し、みんなの安全と働きやすい職場環境を共に築き上げよう!
◆ 明るく・楽しく・元気よく! 共に支え合う仲間の輪を広げよう!
◆ 一人一役・全員主役! 全員参加でJR西労組運動を継承しよう!